

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 飯山 瑠海
所属 法学部
学年 3年
留学先 Universiti Malaya(マラヤ大学)
留学期間 2023/2/12~2023/3/5

留学レポート Study Abroad Report

○全体の感想

私は今回初めて渡航型の海外留学を体験しましたが、本当に留学して良かったと思います。実際に自分の話す英語でコミュニケーションをとる経験、英語で学び、英語で考え、英語で意見を述べるという経験など、これからの自分の人生において必ず糧になる経験ができました。フィールドトリップや授業等を通じて、この目で見て肌で感じながらマレーシアについて知り、学ぶことができたことも、貴重な経験になりました。上手く言葉にはできませんが、この留学経験を経て、自分自身良い意味で変わったなと思うことが多くあります。そして、このプログラムを通してできた友人も、一生の宝物です。

○留学をしてみようと思ったきっかけ

1年生の頃から留学に興味があり、自分の英語力を伸ばそうと考えてGC副専攻を履修していました。GC副専攻でも留学の機会はあるのですが、私は運悪くコロナ感染症の感染拡大の時期にあたってしまい、実際に渡航して留学するプログラムが変更されてオンライン留学となりました。

そのオンライン留学を通じて自分の英語力に少し自信を持ったことと、大学生のうちに1度は海外に渡航する形で留学したいと思い、留学を決めました。また、英語「を」学ぶのではなく英語「で」学ぶ経験がしたいと思い、SoSHIPというコースを選択しました。

○食事

朝食、昼食、アフタヌーンティーはマラヤ大学のホールで食べ、夕食はバディと一緒に外食したりデリバリーを頼みました。私はどの料理も大好きで、毎食しっかり食べていました。写真は、私が一番好きなメニューです。カラフルに色付けされたご飯にほろほろの牛肉、スパイスで味付けされたチキン、そして生野菜のサラダを混ぜて食べます。夕食は、ローカルバディが希望を聞いてくれるので、自分の好きなものを食べることが出来ました。せっかくなので、マレーシアでしか食べられない料理を試してみることをオススメします！現地では何が食べたいか、マレーシアでは何の料理が有名なのか、事前リサーチは必須ですよ！



○授業

今回は SoSHIP というコースに参加し、① Malaysian Studies ② Politics and International Relations ③ Adolescent Psychology ④ Gender Studies という4つの科目を受講しました。左の写真の建物で、少人数(全員で10人程度)で授業を受けました。

基本的には先生の講義を聞く形式ですが、よく授業中であてられて意見を求められました。また、各授業の最後に、その回の授業で学んだことを踏まえたディスカッションをすることもありました。

SoSHIPでは、各授業で成績がつけられるため、小テストや課題が出されます。2人や3人のグループで先生から与えられたお題について調べ、自分たちの意見をまとめてプレゼンをすることも何度ありました。



また、上記4つの授業のほかに、週2回、SoSHIPとELCのコース参加者合同で午後Traditional Dance and Musicという授業を受講しました。

この授業では、ダンス選択と音楽選択に分かれてマレーシアの伝統的なダンス、音楽を練習します。ダンス選択者は、さらにマレーダンス、ボルネオダンス、チャイニーズダンスの3グループに分かれて練習し、発表します。音楽選択では、1グループ7人から10人の計4グループに分かれ、それぞれのグループで異なる曲を練習して演奏します。私は音楽選択で、2曲演奏しました。右の写真は、私が2曲目で演奏した楽器です。



SEPプログラム(SoSHIP/ELC)の最終日にクロージングセレモニーがあり、そこで自分の選択した音楽やダンスの練習の成果を発表しました。どの音楽やダンスのグループもとても上手で、発表を見たり聞いたりするのも楽しかったです。

○フィールドトリップ

平日で午後の授業が無い時と、休日(土曜日・日曜日)はフィールドトリップがありました。バスで移動して、観光地を巡ります。クアラルンプール周辺の観光地はほぼ行きつくしたのではないかと思います、様々な場所に訪れる機会がありました。

右の写真は、フィールドトリップで訪れたピンクモスクの写真です。ピンクモスクの構造や歴史についてガイドさんからお話を聞く機会があり、興味深い話ばかりだったこと、またこのモスクの外観がとても美しかったことが印象に残っています。本当に様々な場所に訪れる機会があるので、どこに行っても忘れずに写真を撮ることをオススメします。また、何らかの形で感想や学んだことをメモしておくとも良いかもしれません。



○ハプニング

今回はコロナ感染症対策ということで、大学寮ではなくホテルに1人1部屋で滞在していました。一度ホテルのエレベーターが緊急停止して、6人でエレベーターに10分ほど閉じ込められたことがありました。外にいたバディに連絡して事なきを得ましたが、日本では1度も経験したことが無かったので驚きました。

○修了後のモチベーション

英語の勉強を継続することのモチベーションは、プログラム参加前より高まったと思います。今回のプログラムを通して、自分の英語力に自信が持てるようになりました。自信を持てるようになったからこそ、もっと高みを目指したい、もっと表現のバリエーションを増やしたいと思うようになりました。

また、海外へ行くことへのハードルが下がり、将来海外で活躍したいというモチベーションが高まりました。私はもともと日本だけでなく海外でも働きたいと思っていたのですが、今回のプログラムを通してその気持ちがさらに強まりました。



○バディ制度

このSEPプログラムは、ELC、SoSHIPのコースを問わずバディ制度があります。日本からの参加者数人に対してマラヤ大学の学生が1人の、3~6人のグループを作る制度です。日本からの参加者はジャパニーズバディと呼ばれ、マラヤ大学の学生はそれと区別する形でローカルバディと呼ばれることもあります。

プログラム中は基本的にそのグループで行動します。授業と一緒に受けるのはもちろん、一緒にご飯を食べたり、フィールドトリップにでかけたり、そのグループで沢山の思い出をつくります。ローカルバディは皆優しく話やすく、同年代ということもあってすぐに意気投合しました。自分のバディもちろん、他のローカルバディとも仲良くなることができ、今でも連絡を取り合う仲です。また、他大学からの参加者(ジャパニーズバディ)とも話す機会が多く、留学を通して多くの知り合いができました。

○最後に

私はこのプログラムを通して、大きく成長することが出来たと思っています。もちろん英語の能力についてもそうですが、人間的にも成長することができました。

このプログラムでは、3週間で成長できる環境が揃っています。興味があれば、ぜひ一歩を踏み出して、その環境に飛び込んでみてください。自分の英語力について心配する必要はありません。必ず、あなたの人生の糧になる経験ができるはずです。